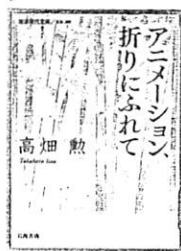


## 『つやつや、ごはん』

杉田淳子、武藤正人／河出書房新社

いろいろな作家が書く、ご飯が主役のエッセイが39篇。お米やご飯にまつわる懐かしい思い出やほろ苦い思い出、読んでいただけでお腹が空いてくるような美味しそうな話がぎゅっと詰まった一冊です。特にレシピがたくさん載っているわけでもないのに、目の前に炊きたてのつやつやご飯やおむすびが並んでいて、その香りまでもが漂ってくるような気がするから不思議。夜中に読んでみると、確実に今すぐご飯が食べたくなります。きっと私たち日本人のDNAには「お米の美味しさ」が染みついているのでしょうね。この本は「おいしい文藝シリーズ」の中の一冊ですが、その他に「ぶくぶく、お肉」「ずるずる、ラーメン」「ぐっぐつ、お鍋」などがあり図書館に揃っています。どれも気軽に読めるので、美味しいお話でちょっと小腹を満たしたい人におすすめのシリーズです。

家庭科 丸山真司美先生



## 『アニメーション、折りにふれて』

高畑 勲／岩波書店

この本は、「アルプスの少女ハイジ」「赤毛のアン」「火垂るの墓」など数多くの有名作品を手掛けたアニメーション映画監督であった高畑勲監督が、共に映画を作ってきた仲間たちや尊敬した人について、また作品を作るにあたっての心構えや作品に込めた思いなどを記しています。多くの人々に惜しまれつつ2018年にこの世を去った高畑勲ですが、その作品を知っている人も知らない人も、この本に出会うことできっとその生き様に感銘を受け、共感することと思います。是非図書館で手に取って読んでみてください。

20H

## 『山猫クー』

小野寺 優／河出書房新社

この作品は、猫好きの羽海・美羽の姉妹と大好きな航一、そして山猫を中心とした話です。街中を歩いていた美羽と航一は、段ボールの中で子猫を発見します。それがクーとの出会いでした。猫好きの美羽はマンションに連れ帰り、世話をするようになります。羽海が事故で亡くなってしまい、更にクーの正体がシベリアオオヤマネコだったことが判明して、警察が動物園に連れ戻しにやってくるなど、大変なことが次々と起こるので、ずっとハラハラドキドキが止まりません。先の展開が気になり最後まで一気に読んでしまいました。とても感動する作品なので、皆さんもぜひ読んでください。

16H

## 『一人っ子同盟』

重松 清／新潮社

自分が小学生の頃感じていた虚しさとか、子どもにはどうにもできない不条理なこととか、言葉にできない複雑な感情がしっかり言語化されていて、とても好きな作品です。同じ団地に住むノブとハム子は、共に複雑な事情を抱える一人っ子で、困った時には助け合おうと密かに同盟を結んでいた。そこにお調子者で喧嘩好きの転校生オサムが加わって…。読む度にじんわり切なく淋しくなり、また読んでみたくなります。大人になったノブ・ハム子・オサムが再会する続編を作者に書いてもらって、また三人の笑顔に会いたかったです。

18H

## 『三毛猫ホームズの推理』

赤川次郎／光文社

芦田愛菜さんは、好きな作家の一人として赤川次郎を挙げています。この作品は、赤川次郎の「三毛猫ホームズ」シリーズの第1作目。血を見るのが苦手、女性恐怖症の片山刑事は、女子大生殺害事件の捜査担当になった。その後、事件の鍵を握っていた大学教授が殺害されてしまい、その飼った猫を預かることになった片山だが、やがてその猫(ホームズ)が並みの猫でないことに気づき、三毛猫ホームズと共に事件を解決していく…。この本は1978年に発表され、現在までに「三毛猫ホームズ」シリーズとして50巻以上刊行されています。推理小説が苦手な人でも最後には事件の真相がわかるので、楽しめます。ぜひ一度読んでみてください。

17H



呪いの言葉  
の解きかた  
上西 充子 著

## 『呪いの言葉の解きかた』

上西 充子／晶文社

アルバイトやクラブ活動をしている人で、ハラスメント問題を抱えた人にぜひ読んでいただきたい一冊です。「嫌なら辞めればいい」という言葉は、本の中では「呪いの言葉」と言われています。不当な働き方をしているのは相手側なのに、「文句を言ったことが悪い」とか「我慢できないのなら辞めなさい」という言葉を上司や経営者から言われ、自分に非があるように感じてしまったことはありませんか。そしてそんな「呪いの言葉」を解く方法があるのなら、知りたいと思いませんか。自分も同じような経験があるという方にこの本を読んでいただき、参考にして欲しいと思います。

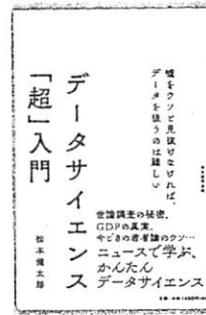
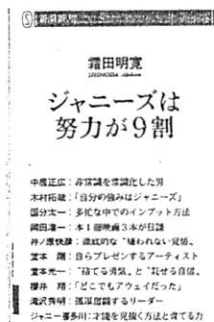
15H

## 『ジャニーズは努力が9割』

霜田明寛／新潮社

現在、テレビや雑誌、映画など様々な分野で活躍しているジャニーズのメンバーが、一人倍の努力をした結果、今の地位に上り詰めたということが分かる本です。ジャニーズを代表するタレントの木村拓哉さんや、大野智さん、櫻井翔さん、中島健人さんなど16名の話が書かれています。例えば大野さんは、嵐のリーダーとして忙しい日々を送る中、プライベートでフィギュア製作や絵画制作を続け、昔からの夢であったアート展を2008年に全国で開催しました。私はこの本を読んで、多彩な才能に恵まれ輝いている人ほど、見えないところで努力しているのだということがわかりました。ジャニーズ好きの人にも、またそうでない人にも読んで欲しい1冊です。

19H



## 『データサイエンス「超」入門』

松本健太郎／毎日新聞出版

ニュースを見ていると、よく「一世代あたりの〇〇が何%増加しています」という数値が引き合いに出されますが、このような値はどのようにして出てくるのでしょうか。この本では、ニュースに上げられる数値や確率の算出方法をわかりやすく解説してくれています。また、あまり身近でない分野の数値には、要点をわかりやすく伝える為に文字の太さを変える等の工夫が凝らされていることを知って、大変感心しました。普段よく見るニュースも、データサイエンスという仕組みを知れば、さらに面白く感じられると思います。ニュースのデータが誰にでも分かるように詳しく解説されているので、皆さんも図書館で気軽に手に取って読んでみてください。

21H